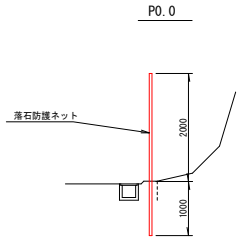


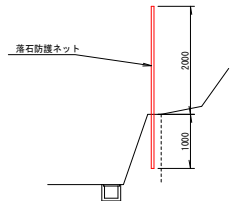
村道宮谷鹿兒線

横断面図

S=1:50



P15.0

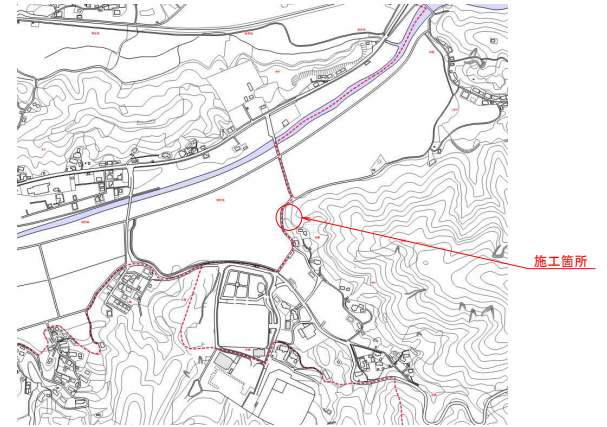


平面図

S=1:500

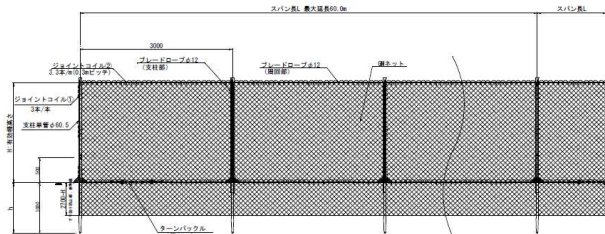


位置図



構造図

落石防護ネット
(H=2000)



吸収エネルギー 10 kJ
総施工延長 L 4.0 m ※最大60.0m1区間 区間数 A= 1
総スパン数 N 2 スパン ※最大20スパン1区間

内訳
3.0mスパン ※Nn:同スパン
N1= 1.3333333333333333 × 1区間
区間延長(m) ※Ln:同一延長 ※nが同じスパンを延長に換算
L1= 4 × 1区間

柵高 H 2.0 m
基礎長 h 1.0 m
ネット幅 W 2.7 m

数量計算

落石防護ネット工
落石防護ネット (H=2000) L= 15.0 m
仮設工
交通誘導警備員 N= 4.0 人

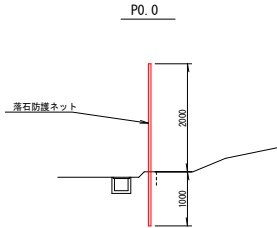
工種	種別	計算式	設計数量
支柱設置工	支柱建込工	3.0mスパンで配置 S= スパン数 N+1本	6 本 2 本 4 本
受撃部構築工	GMネット設置工	ネット高 H1= 2.7 m ※H+余長0.7m 使用数量=H1×L×1.03 ※H=2.0m,2.5mはW=H1 ※H=2.0m,2.5mはW=H1 支柱1箇所につき3本使用 jet= S×3 延長方向0.3m/箇所使用(上下ロープに配置) jet= L/0.3×2 上下延長方向と両端部柵高さ+端部処理予長さ(1.0m)をスパン数分 BL1= ΣLn×2+(A×2×H+A) ※Ln:スパン延長 支柱1箇所当たり 支柱高さ×2+結代1.0m 中間支柱で使用 BL2= H×2+1.0×SC 周回部ロープ設置区間1箇所につき1個使用 TB= A×1 周回部ロープ設置区間1箇所につき1本使用 RB= A×1	41.7 m ² 18 本 100 本 35.0 m 20.0 m 1 個 1 本

令和6年度			
日高村			
工事種別	維持第3号 村道宮谷鹿兒線他1路線落石対策工事		
図面名称		縮尺	図示
路線河川名	村道今市田線		
工事箇所	高知県 高岡郡 日高村 村内		
設計種別		図面 番号	1 2
事務所名	日高村役場		
会社名			

村道今市石田線

横断面図

S=1:50

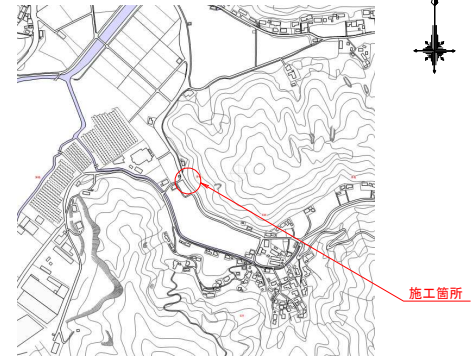


平面図

S=1:500

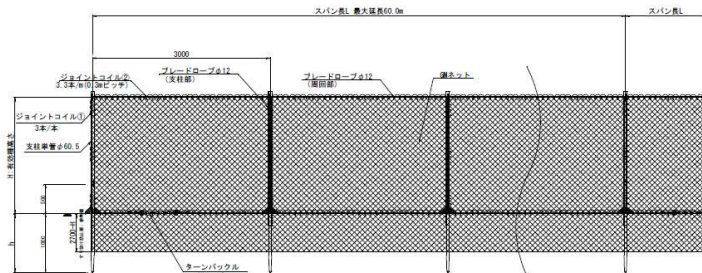


位置図



構造図

落石防護ネット
(H=2000)



吸収エネルギー 10 kJ
総施工延長 L 15.0 m ※最大60.0m1区間 区間数 A= 1
総スパン数 N 5 スパン ※最大20スパン1区間

内訳
3.0mスパン ※Nn: 同スパン
N1= 5×1区間
区間延長(m) ※Ln: 同一延長 ※nが同じスパンを延長に換算
L1= 15×1区間

柵高 H 2.0 m
基礎長 h 1.0 m
ネット幅 W 2.7 m

数量計算

落石防護ネット工
落石防護ネット (H=2000) L= 4.0 m
仮設工
交通誘導設備員 N= 1.0 人

工 種	種 別	計 算 式	設計数量
支柱設置工	支柱埋込工	3.0mスパンで配置 S= スパン数 N+1本	3 本 2 本 1 本
受撃部構築工	GMネット設置工	ネット高 H1= 2.7 m ※H+余長0.7m 使用数量=H1×L×1.03 ※ロス率3.0% ※H=2.0m,2.5mはW=H1 支柱1箇所につき3本使用 jot= S×3 延長方向0.3m/箇所使用(上下ロープに配置) jot= L/0.3×2 上下延長方向と両端部幅高さ+端部処理長さ(1.0m)をスパン数分 BL1= ΣLn×2+(A×2×H+A) ※Ln: スパン延長 支柱1箇所あたり 支柱高さ×2+結代1.0m 中間支柱で使用 BL2= H×2+1.0×SC ターンバックル 周回部ロープ設置区間1箇所につき1個使用 TB= A×1 ロープ差込棒 周回部ロープ設置区間1箇所につき1本使用 RB= A×1	11.1 m ² 9 本 27 本 13.0 m 5.0 m 1 個 1 本

令和6年度			
日 高 村			
工 事 種 別	維持第3号 村道宮谷鹿野線他1路線落石対策工事		
図 面 名 称		縮 尺	図 示
路線河川名	村道宮谷鹿野線		
工 事 箇 所	高知県 高岡郡 日高村 村内		
設 計 種 別		図 面 番 号	$\frac{2}{2}$
事 務 所 名	日高村役場		
会 社 名			